

## 情報通信審議会 情報通信技術分科会 放送システム委員会 V-Low マルチメディア放送技術検討作業班(第1回) 議事概要(案)

### 1 日 時

平成25年7月26日(金) 14時00分～14時50分

### 2 場 所

総務省11階 11階会議室

### 3 議 題

- (1) 調査の進め方について
- (2) V-Low マルチメディア放送に関する動向について(ヒアリング)
- (3) V-Low マルチメディア放送の放送設備に係る安全・信頼性に関する技術的条件について
- (4) その他

### 4 出席者(順不同、敬称略)

【構成員】甲藤主任(早稲田大学)、大野(東芝)、大山(日本アンテナ)、高田(日本民間放送連盟)、矢野(情報通信研究機構)、吉村(代理:阿部)(日立国際電気)

【説明者】仁平、斉藤(エフエム東京)

【事務局】野崎、向井、豊重、長澤、柏崎、波間、塚田(情報流通行政局放送技術課)

### 5 配付資料

資料 作1-1 V-Low マルチメディア放送技術検討作業班 設置要綱

資料 作1-2 「V-Low マルチメディア放送の放送設備に係る安全・信頼性に関する技術的条件」の検討概要

資料 作1-3 V-Low マルチメディア放送のサービスイメージ

資料 作1-4 基幹放送の設備に係る安全・信頼性に関する技術的条件

資料 作1-5 今後の検討スケジュール(案)

参考資料 「V-Low マルチメディア放送の放送設備に係る安全・信頼性に関する技術的条件」の検討開始(情報通信技術分科会(第96回)資料96-4(平成25年7月24日))

### 6 議事概要

議事次第に沿って調査検討を行った。議事概要は以下のとおり。

#### (1) 調査の進め方について

事務局より、資料作1-1及び1-2に基づき説明があり、調査の進め方が了承された。

#### (2) V-Low マルチメディア放送に関する動向について(ヒアリング)について

説明者より、資料 作 1 - 3 に基づき説明があり、主に以下の質疑が行われた。

- Channel-V 及び Channel-Lo の 2 種類のサービスがあるが、例えばカーナビはカーナビ用のサービスのみ受信可能であり、PDA用のサービスはPDAでのみ受信可能である等、プラットフォームにより受信できる内容に制限はあるのか。(甲藤主任)
- 特に制限を設けず、どちらのサービスもすべての端末で受信できるようにするつもりだが、提供側としてはカーナビ用のサービスは車内で受信した際に役立つことを想定して送信するつもりである。(説明者)
- 資料 作 1 - 3 の p15 の地下街・屋内等のサイネージはギャップフィラーを中継して、受信するのか。また、520 局のギャップフィラーは高速道路に設置することを想定しているのか。その場合、どのくらいの間隔で高速道路のどこに設置し、電源はどのようにして確保するのか。(事務局)
- 地下街・屋内等はリピータ等を設置することを考えているが、現在の計画には含まれていない。高速道路に設置するギャップフィラーは 4km 間隔で路側に設置する予定である。電源についてはギャップフィラーと同じ場所に設置するか、または SA・PA に設置して路側のギャップフィラーに供給することを考えている。(説明者)
- 資料 作 1 - 3 の p6 の「新規」とは鉄塔から建てるようなイメージなのか。(事務局)
- この「新規」は鉄塔及び局舎から建設するものである。(説明者)
- 「FM 共用」とは、既存の FM 局から V-Low も送信することを指しているのか。また、「新規」においては FM のエリアを広げるのか。(甲藤主任)
- 「新規」は、仮に FM 会社から希望があれば FM 局を搭載するが、基本的に自社の V-Low のために建設する。(説明者)

### (3) V-Low マルチメディア放送の放送設備に係る安全・信頼性に関する技術的条件について

事務局より、資料 作 1 - 4 に基づき説明があり、主に以下の質疑が行われた。

- FM 基地局との共用及び V-High が参考項目になるという理解でよろしいか。(甲藤主任)
- 例えば、資料 作 1 - 4 の p15 は V-High マルチメディア放送についてであるが、平成 25 年 7 月 10 日の 電監審の答申により、都市部のビル陰等の受信状況を改善するために、3W 以下の小規模な放送局等の安全・信頼性基準について制度整備を行ったものである。この放送局はビル陰等にギャップフィラーとして設置し、二重化を図るものであるから、停波の影響も限定的であるため、大規模な地震対策等は不要としている。V-Low マルチメディア放送についても、どのようなネットワーク構成が想定され、そのネットワークの中で各放送局がどのような役割を果たし、それが停止した場合どのような影響を与えるのかを踏まえて、安全・信頼性基準を検討していただきたい。(事

務局)

○V-Highについて小規模な放送局は後で追加したとのことだが、本件では一度に整理するのか。(高田構成員)

○現段階で想定されるものは最初から検討の対象としていただきたい。(事務局)

○V-Highの大規模・中規模・小規模、親局・中継局、日本全国・ブロック別・県別等の様々な定義があるが、どのように切り分けているのか。電力で切り分けることは可能なのか。(甲藤主任)

○放送システムによって異なるが、大規模・中規模・小規模については概ね電力で切り分けている。本件についても電力を基準に技術的条件を整理することも考えられるが、どのような切り分けにするかも含めて検討していただきたい。(事務局)

○V-Low は一つの送信所のカバーエリアが広いため、同じようなデジタル信号を扱うマルチメディア放送を参考にして検討を進めることが望ましいと思う。(阿部代理)

#### (5) その他

事務局より、資料 作1-5に基づき今後のスケジュールについて説明があった。また、次回のV-Lowマルチメディア放送技術検討作業班は8月5日(月)10時から開催する予定である旨連絡があった。

以上